

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町の生活支援コーディネーターの活動や、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～生活支援コーディネーター支援の仕組みを紹介します～

生活支援体制整備事業が始まって7年が過ぎようとしています。近年では市町における包括的支援体制づくりへの取り組みが求められる中、生活支援COに寄せられる期待が大きい反面、地域活動も、地域性で一律には取り組めない難しさもあります。よって、県社協では、豊かな地域づくりの支援に取り組む生活支援COの支援の仕組みを考えました。



生活支援コーディネーターネットワーク企画会議

- ・コーディネーター養成研修の企画
- ・コーディネーターの交流の場、学びの場づくり
- ・コーディネーターを支える仕組みの構築

フォローアップ研修

コーディネーターが活動内容や課題等を共有し、解決方法を学ぶ

県・県社協等で企画

実践研修

市町担当者管理者会議

孤立防止

「地域づくり」が基本です。

基礎研修

研究・研修・創造

兵庫えんがわナビ

コーディネーター相互の交流・情報交換



生活支援COが自主的に参画

ひょうごコーディネーターちゃんねる

各地域における実践の共有



市町の実践を動画で紹介することを計画中

兵庫えん学び塾

いまさら聞けないステップの学びの場



裏面にも載せています。

情報提供:「兵庫えんだより」「たちどまりの本」



【発行元】(令和4年6月30日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当:小山・永坂)

～「いまさら聞けない」ことはありませんか？～

「地域づくりって?」「住民主体って?」こんな質問を住民から投げかけられ、あなたはどのように答えますか?実は、答えられないことも…。私たちの周りには、「わかっていてあたりまえ」と思われることがいっぱいあります。背景がさまざまな生活支援 CO だからこそ、「いまさら聞けない」ことがあります。そこで、県社協では、「いまさら聞けない」「わからない」を「わかる」ようにと「兵庫えん学び塾」を開催することにしました。「わかる」と「できる」が増える、これは、住民活動も同じです。さあ、小さな一歩から始めてみませんか。



市町活動紹介

スマホで地域のつながいを ～老人会のパソコンサポーターとともに～

太子町は、老人会で平成 18 年から、パソコンの講習に取り組んできた先進地です。1 対 1 の講習で、最初は自治会の会議の文章をつくりたい、次は、インターネットをしたい、次は、スマホの孫の写真をパソコンに入れたいと徐々に高度になっていました。その技術は、このコロナ禍で高齢者に配るうちわづくりなどにも生かされてきました。

一方で、最初のワクチン接種のとき「予約ができない…」という高齢者がたくさんおられました。「ICT から取り残される人がいる…」そう感じた生活支援 CO は、デジタル活用支援推進事業※の活用と、講師を老人会 PC 教室の受講者や高校生に依頼する企画で、各自治会の公民館等で身近な地域の交流になるスマホ教室に取り組んでいます。

地域の特性をとらえた生活支援 CO だからこそ、住民と一緒に工夫していけることがたくさんありました。

パソコン技術を発揮したうちわ

歩いていける公民館がいいな

ちょっとしたことでも聞きたい

1 対 1 で教えてほしい

同年代だと気持ちが変わってもらえる

われら老人会のパソコン受講者がサポートします

1 対 1 のパソコン講習会

※国（総務省）が行うデジタル活用支援に対する助成
詳細 URL:https://www.soumu.go.jp/main_content/000734080.pdf

【編集後記】

県社協では、コロナ感染拡大がきっかけで、この「兵庫えんだより」や「兵庫えんがわナビ」等でより多くの市町の生活支援 CO の声を聞いてきました。そこで、新しい制度に戸惑う姿をみました。専門職の私たちが迷うなら、きっと、住民はもっと戸惑うのでは?そんな思いで、原点からの一歩を歩む方法を取りました。「ちょっとしたことが聞ける」「わからない気持ちに寄り添う」そんな姿勢が地域にも広がってほしいと思いを込めました。